

伊勢湾岸自動車道 湾岸弥富IC ~ みえ川越IC間の建設事業

受賞機関

日本道路公団中部支社名古屋工事事務所
日本道路公団中部支社四日市工事事務所

はじめに

伊勢湾岸自動車道は、第二東名高速道路と第二名神高速道路の高速道路2路線と、一般有料道路の伊勢湾岸道路からなる総延長60kmの道路であり、これまでに名古屋南ICから湾岸弥富IC間16.3km(27.2%)が開通していた。

平成14年3月に開通した湾岸弥富ICからみえ川越IC間(8.3km)は、第二名神高速道路の一部として初めて三重県内へ延伸し、中部地域の基幹国道である一般国道23号に接続し、一般国道23号に代わって名古屋市域通過交通を担う本格的な大動脈となる高速道路である。

事業の概要

道路名：伊勢湾岸自動車道

開通区間：湾岸弥富IC(愛知県海部郡弥富町)から
みえ川越IC(三重県三重郡川越町)まで

事業期間：平成3年12月～平成14年3月

事業費：約2,390億円

事業の特徴

今回開通した区間は、木曾三川をはじめとする大小の河川を横過することから、全て橋梁高架構造となっている。この橋梁高架の設計、施工にあたっては、コスト削減、



位置図



揖斐川河口上空より湾岸長島ICを望む



開通式(テープカット)

工期短縮、品質向上を目指し、多くの新技術、新工法を駆使している。例を挙げるとPC橋においては、プレキャストセグメント工法や波形鋼板ウェブ橋の採用、鋼橋においては少数主桁型式などの採用である。なかでも、その河川条件、周辺の漁業に与える影響の最小化などの条件から、河川内の支間長を可能な限り長くとり、かつ、上部工架設の現場作業を最小限にすることの可能な『PC・鋼複合連続エクストラードロード橋』という世界でも例を見ない新しい形式を採用し設計、施工を行ったことである。

当該区間の建設は、こうした一連の新技術・新工法の採用により、橋梁建設技術の発展に大きく貢献したとともに、国際的にもわが国の橋梁技術水準の高さを大いに認められる機会となった。

本区間の開通により、伊勢湾岸周辺の産業地域へのアクセス並びに物流機能の強化に寄与するとともに、交通の輻輳が著しい一般国道23号や一般国道1号の交通を分散させ、混雑の軽減、周辺道路の円滑な機能向上が期待されている。

受賞賛助会員 石川島播磨重工業(株)中部支社、大末建設(株)名古屋支店、(株)奥村組名古屋支店、オリエンタル建設(株)名古屋支店、極東工業(株)名古屋支店、五洋建設(株)名古屋支店、清水建設(株)名古屋支店、大成建設(株)名古屋支店、大日本土木(株)名古屋支店、大有建設(株)、高砂建設(株)、(株)東京鐵骨橋梁名古屋営業所、ドービー建設工業(株)名古屋支店、東洋建設(株)名古屋支店、トビー工業(株)名古屋支店、日本鋼管(株)名古屋支社、日本高圧コンクリート(株)大阪支社、日本鋼弦コンクリート(株)名古屋支店、日本鉄塔工業(株)名古屋営業所、(株)間組名古屋支店、(株)ピー・エス名古屋支店、日立造船(株)中部支社、吉川建設(株)、若築建設(株)名古屋支店